

“3歳6か月児健診”の前にお子さんの
「耳の聞こえ」をチェックしましょう

☆ ささやき声検査について ☆

“音には反応している”、“言葉を話している”から
「耳は十分に聞こえている」と思っていませんか？

普通の音は聞こえているけれど、小さな音が聞こえていない事があります。その場合、ある程度の聞こえがある為に、言葉が遅れていながらも出ていたり、発音不明瞭であっても会話ができたりするので、耳の聞こえが悪くても発見が遅れてしまいがちです。

このような軽度～中等度の難聴があると、周りで話している声は聞こえても、「言葉」としての理解が難しくなると言われています。

“3歳6か月児健診”の前には、必ずご家庭で「耳の聞こえ」のチェックをしましょう！

☆ 「耳の聞こえ」のチェック☆ 質問票③について

1. 「耳の聞こえについて」

3歳6か月児健診受診日までに記入し、ご持参ください。

2. 「ささやき声検査」

裏面の実施方法をよく読んでから、次ページの「ささやき声検査用絵シート」をもちいて、お子さんに「ささやき声検査」を行い、結果を質問票③「耳の聞こえについて」下欄にご記入ください。

～ 耳の聞こえが悪いかもしれないとわかったら ～

質問事項やご家庭での事前検査の結果によって、必要なお子さんには3歳6か月児健診においてスタッフが医療機関での精密健診をお勧めすることがあります。

※すでに難聴と診断されて治療や相談を受けておられるお子さんについては、実施していただくなくて結構です。健診会場でその旨お申し出ください。



ささやき声検査の方法

検査の注意事項

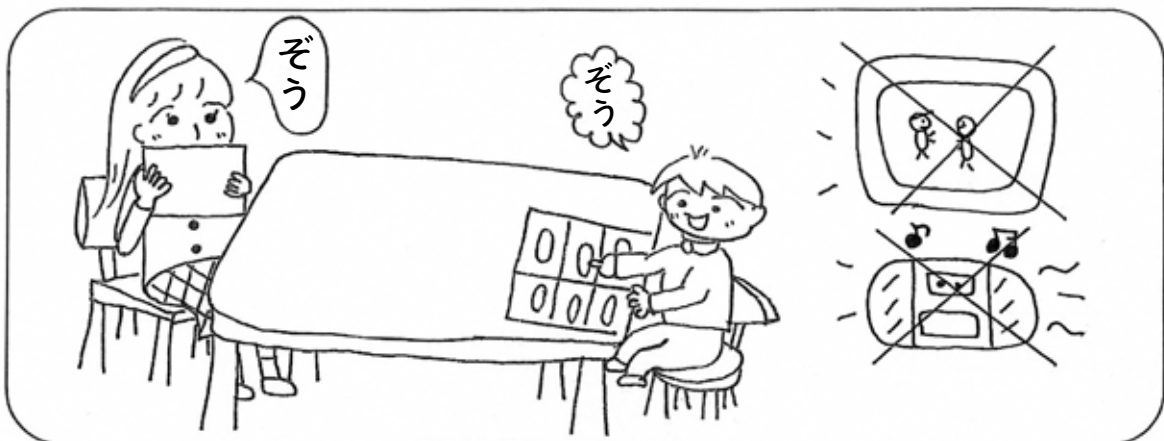
- ・ 自動車の通行など周囲の騒音がない状態で、テレビなどを消し、室内が静かな状態で検査してください。
- ・ 絵の名前を言うのは1回だけです。聞き返されても、繰り返し言わないでください。また、ささやき声が大きくならないように注意してください。

ささやき声の出し方

ささやき声は、息を出すだけの感じで、ないしょ話のようにささやきます。普通の声は、のど（のどぼとけ）に手をあてた時、指に振動が感じられますが、ないしょ話のようにささやくと振動は感じません。この状態が“ささやき声”です。

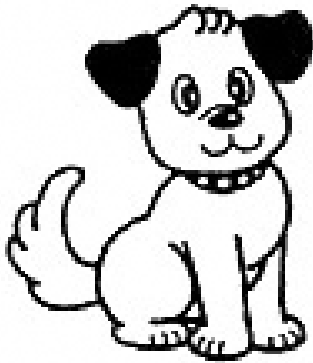
検査の方法

- ①別紙の「ささやき声検査用絵シート」を子どもの方向に向けて置き、1 mくらい離れ、向かい合いに座ります。（下図参照）
- ②「この絵の名前を言うから、言った絵を指してね。」とお子さんに言って、普通の声（会話する時の声の大きさ）で、絵シートの表示した絵の名前（例えば「ぞうさん」ではなく、「ぞう」というように）を言い、お子さんが6個の絵をすべて正しくさせるようにします。
- ③「今度は小さな声で絵の名前を言うから、よく聞いて、指してね。」とお子さんに言って、口元を紙などで隠し、6個の絵の名前を、ささやき声で1回ずつ言い、正しく指せれば、別紙質問票③「耳の聞こえについて」の下の表に○を、正しく指せなければ×を記入してください。

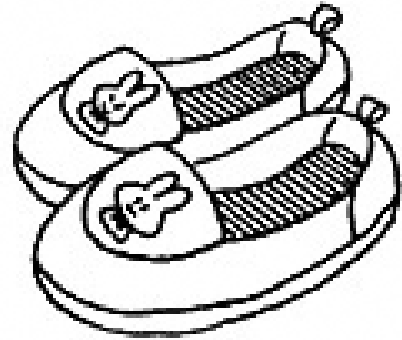


ささやき声検査用絵シート

わい



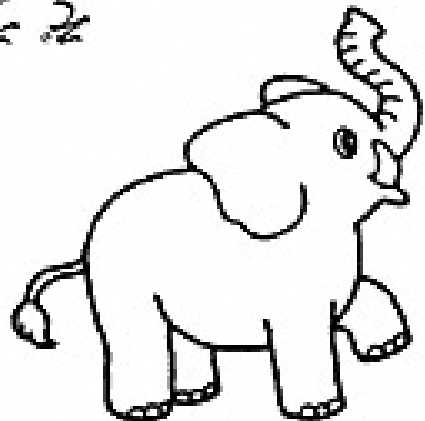
さ



か



ぞ



ね



い

